

台湾現地レポート④

Hellscape 構想と社会基盤の課題

—非対称戦略を支える全社会的レジリエンス—

岩本由起子

米国のシンクタンク Center for a New American Security (CNAS) が発表した報告書 “*Hellscape for Taiwan: Rethinking Asymmetric Defense*” は、台湾有事において数千規模の無人機を多層的に展開し、中国人民解放軍の侵攻を阻止・遅延させる非対称戦略を提案している。沖合から上陸地点までを複数の層で覆い、空・海・水中の無人システムを組み合わせ、侵攻部隊に高い損耗を強いる構想は、従来の「ハリネズミ戦略」を発展させたものといえる。



FEBRUARY 26, 2024

New from CNAS | Embracing a

<https://www.cnas.org/publications/reports/hellscape-for-taiwan>

しかし同報告書は、その実装に際して複数の課題も指摘している。無人システムの量産体制、対中依存を排したサプライチェーン構築、通信妨害への耐性、予算配分や運用概念の転換などである。これらは特定の主体に限らず、関係国を含む制度・産業基盤全体に関わる論点でもある。

無人機の量産能力を支える民間産業の厚み、デュアルユース技術の蓄積、分散型通信を維持できる技術人材、そして社会が動揺せず持久できる基盤——これらは軍の内部のみで完結する要素ではない。非対称戦略の持続可能性は、軍事技術だけでなく、社会全体のレジリエンスの水準によって左右される。

本報告書は、私が所属する研究機関内でも共有され、活発な議論の対象となっている。台湾の安全保障コミュニティにおいても、非対称防衛の方向性が重要な論点となっていることがうかがえる。

台湾では総統府直属の 全社会防衛レジリエンス委員会 (WSDRC) が設置され、全社会的備えの制度化が進められている。Hellscape 構想は軍事技術の議論として注目されがちであるが、その実効性は軍事力のみならず、社会基盤の設計という観点からも検討されるべき段階にある。



<https://www.youtube.com/watch?v=oLACwMkKgQY>

参考(出典)

- Center for a New American Security, *Hellscape for Taiwan: Rethinking Asymmetric Defense*
<https://www.cnas.org/publications/reports/hellscape-for-taiwan>
- 全社会防衛レジリエンス委員会 (Whole-of-Society Defense Resilience Committee),
総統府公式発表
<https://english.president.gov.tw>